

NTTスマートコネクト、 セキュアなネットワーク接続と パブリッククラウド接続が 可能な2つのIaaS基盤を強化

Nutanix Cloud Platformを活用し、NTTスマートコネクトの
俊敏な基盤を実現し、契約者の急増に対応

導入によるビジネスのメリット

- IaaSのインフラ導入の内製化と、契約者の急増に対応できる柔軟性とアジリティの実現
- サービス基盤のパフォーマンスが最大5倍向上
- 設備収容率1/5削減と、重複排除による30%のデータ圧縮で効率化



「Nutanixなら、パラメーター設定し、1クリックでディプロイできるため、簡単に環境を構築できます。これまでのように、ディプロイや初期設定を外部委託せず、自社の運用担当者で内製化できました。これにより、自社のITの専門性を向上することができました」

- NTTスマートコネクト株式会社 サービスオペレーション部 今田 達也 氏



「万一、障害が発生した場合も、リモート接続してログを取得し、その場で迅速に問題の切り分けができるため、安心してサービスを運用できるようになりました」

- NTTスマートコネクト株式会社 サービスオペレーション部 松谷 貴司 氏

取り組み

西日本電信電話株式会社の100%出資によって2000年に設立、堅牢なファシリティとIX直結と多数のISPとダイレクトにピアリングできる自社データセンターを基盤に、各種サービスを提供しているNTTスマートコネクト株式会社。ハウジングをはじめ、基盤サービスからSaaS型サービスまで幅広く提供するクラウド、信頼性の高いコンテンツ配信を可能にするストリーミング、そしてAIログ分析を活用したデータ分析・活用の4事業を展開しています。顧客との緊密な距離間で手厚いサービスを提供するなど、メガクラウドとの差別化を図りながら、IaaS基盤や付帯する監視・保守サービスなど各種ラインアップを駆使して、顧客の課題解決につながる提案が大きな強みです。

同社は、お客様向けのクラウド基盤を、インターネットはもちろん、全国の学術ネットワーク(SINET)やNTTの閉域網など多様なネットワーク接続を介して提供する「スマートコネクトVPS」(VPS)を提供してきました。

業界

サービスプロバイダー

課題

- ハードウェア環境の老朽化
- サービスのIO処理性能不足
- データセンターの設備収容率悪化

ソリューション

Nutanix クラウドインフラストラクチャ (NCI)

- AOS Storage
- VMware ESXi ハイパーバイザー

アプリケーション

- データセンターサービス利用者が活用するビジネスアプリケーション

2014年、従来のインフラがEOL (End of Life)を迎え、新たなソリューションが必要になりました。「当時は3層構成をベースとした環境でしたが、ストリーミングを提供するお客様のトラフィックがさばけない状況が発生していました。週1回の頻度でシステムが落ちることもあり、リソースが十分ではありませんでした」とサービスオペレーション部の今田 達也氏は当時を振り返ります。

そして、VPSのIaaS基盤として、パフォーマンスの課題を克服したNutanixのハイパーコンバージド・インフラストラクチャー (HCI) が採用されました。それ以来、Nutanixは耐障害性を実証して来ましたが、2019年、再びシステム更改のタイミングとなったことから、NTTスマートコネクトは、Nutanixの初期プラットフォームを更新し、Nutanix Cloud Platformをさらに強化することを決定しました。

ソリューション

2019年の新たなソリューション検討において、同社にはいくつかの要件がありました。その中でも特に、サービスオペレーションチームにとって、優先度の高いものが2つありました。まず優先されたのは、必要に応じて拡張し、契約者が急増した際にサポートできるアジリティを確保することでした。2つ目の優先事項について、今田氏は「特に重視したのは、万が一プラットフォームのサポートが終了しても、サービスを他に転用しやすいかどうかでした」と述べています。

今田氏は、「Nutanix Cloud Platformは、さまざまなハードウェアで動作可能なソフトウェアなので、2014年以来利用してきたNXシリーズがEOLを迎えましたが、HPEが提供するHPE ProLiant DXシリーズに刷新する際も不安は全くありませんでした」と語ります。さらに、「はじめてNutanixを採用した当初は、HCIによりサーバーやスイッチ、ストレージの障害を個別に切り分ける必要がなくなり運用管理がシンプルになりました。2019年の刷新では、HPEがハードウェアとNutanixのソフトウェアの双方のサポートを集約して対応してくれる点も大きかったです」と今田氏は付け加えます。

現在、Nutanixの採用は、VPSのみならず、NTTスマートコネクトの他のサービスにも広がっています。多様なパブリッククラウドとの接続を可能にするベアメタル基盤をノード占有型のHardware as a Services (HaaS) で提供する「SmartConnect Cloud Platform (SCP HaaS)」にも採用され、全体で100ノードを超える規模が運用されています。「OSの初期インストールまで行ったうえでご利用いただけるVPSは小規模のお客さまが多く、自社で運用も含めて行っている大規模のお客さまにはSCPをご利用いただいているケースが多いです。VPSはSINET接続が可能のため、文教系のお客さまもご利用いただいております、弊社のサービス用途は多岐にわたっています」とサービスオペレーション部 松谷貴司氏は説明します。

導入効果

Nutanix Cloud Platform 導入して次のような効果が得られました。「Nutanix環境は、初期パラメータを設定し、1クリックでデプロイできるため、簡単に構成することができます。そこで、これまでのようにデプロイや初期設定を外部に委託するのではなく、自社の運用担当者が社内で行うことにしました。これにより、自社のITの専門性を高めることができました」と今田氏は語ってくださいました。

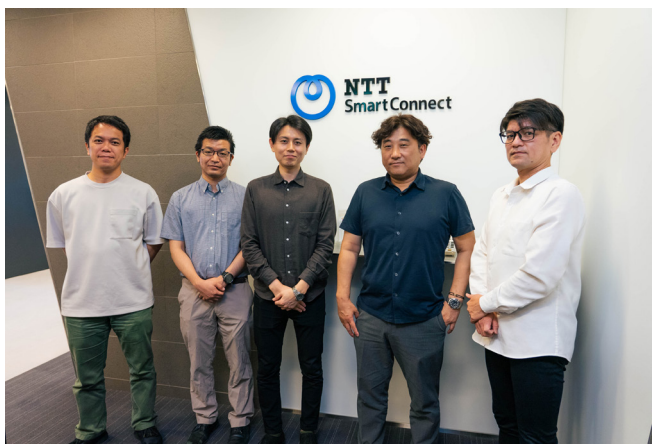
また、今田氏は「オールフラッシュを採用したことで最大5倍ほど性能が向上しています。Nutanixの重複排除も活用しています。30%ほどデータ圧縮できたことで、ストレージの効率性を高めることができました。さらにProtection Domain (保護ドメイン)によるバックアップは非常に使いやすいです。ノード全体がダウンするリスクとコストを避けるため、ローカルバックアップで運用しています」と付け加えます。

「データセンターの設置面積を1/5ほど圧縮でき、設備収容率が大幅に改善しました。これはデータセンターを運営する私たちにとって重要な経営指標であり、メリットでもあります。万一、障害が発生した場合も、リモート接続してログを取得し、その場で迅速に問題の切り分けができるため、安心してサービスを運用できるようになりました。VPSやSCPなど多彩なクラウドサービスを提供することで、他の商材を組み合わせながらビジネス展開しやすくなっています」と松谷氏からも好評です。

今後の展開

「お客さまから遠隔地でのDR環境の要望が上がっているため、他のデータセンターへバックアップすることも検討しています。提供サービスの付加価値としてDR環境が整備できれば、さらにサービス展開しやすいはずですよ」と今田氏は期待を寄せています。さらに、今後の展望について松谷氏は、「Nutanix Cloud Clusters (NC2)によりAWSなどのメガクラウドもうまく活用しながら、お客さまの課題に応えられるようサービスの拡充も行っていきたいです。」と語ってくださいました。

※ 写真の左から順に、サービスオペレーション部 主査 田中均幸氏、同部 今田達也氏、同部 松谷貴司氏、同部 担当課長 山根博晶氏、同部 担当課長 船越一海氏



NUTANIX[™]
YOUR ENTERPRISE CLOUD

info-jp@nutanix.com | www.nutanix.com/jp

©2022 Nutanix, Inc. All rights reserved. NutanixはNutanix, Inc.の米国その他の国における商標です。その他の社名、製品名、ロゴ等は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。本書に記載した情報は、予告なしに変更される場合があります。